

# 「ロシア小話」集

## 1. マッチ工場火災

ロシア製のマッチは火付きの悪いのでは定評がある。あるマッチ工場が火災に遭い全焼した。しかし工場の倉庫内にあった出荷直前のマッチは全量燃えることなく無事であった。消火作業終了後、隊長は隊員に今後の不燃材の開発に際し、参考にするよう命令した。かようにロシアのマッチ、は燃えにくいのである。

## 2. ロシアの紙

文房具、新聞紙、トイレットペーパーなどの紙質は文明のバロメーターと言われている。ロシアは広大な針葉樹林を有しパルプの主要産地である。しかし加工技術に問題を抱え、トイレットペーパーは固くて、しかもミシン目（紙の切り取り線）がないため容易に破れない。そして製品の中に木材繊維がまだ残っているものもある。そのため水洗式排水設備の故障原因ともなる。そこで機転の利く新素材開発技術者がこの点に着目、今後この硬質紙を機械部品か、建築用資材に使用する案を検討した。この転用する技術が先か、世界標準のトイレットペーパー製品の完成が先か、目下興味津々。

## 3. 郵便物所要日数

ロシアの郵便事情は現在も劣悪である。国際郵便は通常 30 日を要する。G8 の晩餐会の席上ロシア大統領は両側に着席の二人の首脳に貴国の郵便事情は如何と投げかけた。両者とも国際郵便は約一週間程度要すると答えた。帰国後クレムリンでの閣僚会議で大統領は郵便担当大臣に詰問し、直ちに改善するよう指示した。それに対し担当大臣曰く「郵便事情のよい国の首脳は歴代自分の政治基盤が弱いことで悩んでいることを大統領閣下はご存知ないのですか」。それを聞いた大統領はただちにその指示を撤回した。

## 4. シベリア鉄道

シベリア鉄道は9300キロメートルの長距離を走破する世界最長の路線である。今は昔、数時間程度の遅延は日常茶飯事だと乗客も納得していた。その当時のある日列車は正確に、時刻表通りに駅に到着した。待っていた搭乗予定者はその正確さに「素晴らしい！」と一同感激した。早速乗車のため車掌に乗車券を提示したところ、これは前日の列車で当日の列車はまだ数千キロ離れているタイガの原野を走行中と車掌は表情ひとつ変えず、平然と答えた。

## 5. 市場経済

新生ロシアでは「市場経済」という言葉が巷で横行している。モスクワのある老人が日頃からどういう意味か理解できず悩んでいた。それを聞いた友人が近々5スター級の高級ホテルで講演会があるから出席したらどうかと提案した。

当然入場料は無料と思い当日会場に出かけ入場したいと申し出た。受付嬢は従前とは変わり、愛想よく親切に入場料につき説明し、料金は次の3コースがありますと説明した。

① ファーストは講師の面前での食事フルコースつき、料金 10,000 ルーブル(約 3 万円)

② ビジネスは大会議室の椅子席、大型テレビ画面の放映、料金 1,000 ルーブル

③ エコノミーはジムで立見席、スピーカーからの音声放送のみで料金は無料

くだんの老人は「これで市場経済がどういうものかよくわかりました」とその場を退散した。

## 6. 黒い階層と赤い階層

ロシア人を収入、資産で分類すると二つの階層がある。一つは黒い階層。「黒塗・大型公用車に乗り、黒いチョウザメの卵(キャビア)を食べ、黒い霧の中を彷徨する人種」。もう一つは赤い階層。「赤旗を毎年 5 月 1 日に振り、赤い鮭の干物を食べ、赤字の家計簿から脱出できない人種」である。

## 7. バイカル湖

バイカル湖は世界に誇る透明度の高い湖である。ある有力閣僚が現地を査察した。彼はバイカル湖の管理費予算を握る要人である。地元大学の世界的権威の学者から説明を聞いていたが次第に機嫌が悪くなって最後は説明を途中で打ち切って、モスクワへ帰ってしまった。周囲の取り巻きは大きな手落ちがあったと判断し一同大慌てで対策を協議した。原因は説明した学者が「透明度」を繰返し強調し過ぎたことだと判明した。いうまでもなく「透明度」は政治家が最も忌嫌う単語である。解決策として高額ルーブル紙幣の束を揃え直ちにモスクワのくだんの閣僚に届けた。その結果、翌年の管理費の削減もなく、バイカル湖の透明度は維持された。そして政治家の透明度はますます劣化した。

## 8. 今と昔

赤の広場で物乞いをしている老人に質問をした。「ソ連時代と現在とではどちらがよいと思いますか」。それに答えて曰く「もちろんソ連時代です。病院の医療費は無料、子供の教育費は無料、交通費は安かった。職場では一日 3 時間程度働いて、あとはカードゲームとチェス、そして昼寝と内職。それでも解雇はなかった。商店の前にはどこでも長い行列があったので並びながらウオッカを飲み、皆と親しくおしゃべりができた。その商店では棚に商品が少ないので選ぶ面倒はなかった。そして一番よかったのは報道管制があったので偉い人の詐欺、横領、収賄の話が入ってこなかったことです」

## 9. 銅像

ロシアの大都市の目抜き通りの交差点、または広場。公園には随所に巨大な銅像が立っている。あの独裁者ヨセフ・スターリンの像は大方消えたが、ソ連体制を築いたイヴェ・レーニンの像は現在でもまだ健在である。ある旅行者がその理由を現地の友人に尋ねたところ、それは当然です。スターリンは短気で、手段を選ばずすぐ実行するよう指示した。レーニンは慎重で、世間の動向を見極めて、気づかれないうちに実行するよう指示した。その指示を今でも忠実に守っているだけです。

\*\*\*\*\*